2020 年 6 月

2020 年 7 月 25 日発行

NPO 法人 わっか

20

月次報告書

だれもが、まるごと受けとめられる社会をつくる

わっかは、だれもが、まるごと受けとめられる社会を目指して活動を行う団体です。

子どもを取り巻く環境について

子どもたちは、思うがままにすごす時間や、まるごと受けとめられる経験が
少なくなっています。いまの子どもたちは、自分では変えることができない
社会環境や大人の意識の変化により「思うがまま」に過ごす時間や、
まるごと受けとめられる経験が少なくなっています。
大人の価値観による評価、他者との比較や数字で表せる結果で、
子どもの存在を条件付きで認める場ばかりになり、
さらには、地域社会においても、
その子のまるごとを受けとめてくれる存在も少なくなっています。
また、学校、学習塾、習い事、スポーツクラブで多忙な毎日を送り
仲間も時間も空間もなくなりつつあります。

「わっか」は、2014 年 3 月から活動をおこなっています。
活動当初は、月に 1 回冒険遊び場を、びわ湖のほとりで行っていました。
2015 年 7 月から、古民家の開放をはじめました。
月曜日の放課後は毎週あけ、日曜日は月に 1 、 2 回開けています。
その時間を通じて出会った人の声に応えるように、活動の幅を広げています。

若者へ毎日とどけるお弁当

わっかでは
毎日、若者へ手作りの
お弁当を届けています。

若者たちは、生活習慣を整えたり
できることから少しずつ
がんばっていますが。
思うような求人がなく
なかなか社会復帰に
つながらないでいます。
なるべく長く働き続けたいと
思うからこそ、選びきれない
気持ちがついていかない
というジレンマと戦う日々です。

私たちは、お弁当を毎日、手作りし
それを配達することを通じて
若者とつながり続けています。

毎日のお弁当と、
お弁当をつくる
あすかさんの言葉から
若者との日々のことを
お伝えします。

朝１番のお届けと夕方にお届けと
それぞれの時間にあわせて
お弁当をお届けしました。

体調を崩したから、
お弁当いらない。とちゃんと伝えて
くれました。ありがとう。

連日の暑さに参ってしまいそう。
早起きしたので、気持ちのいい朝を
迎えることができました。

夏野菜たくさんのお弁当になった。
太陽を浴びてそだった野菜たち。
陽の光をたくさん若者に届けてね。

お弁当のレイアウトは難しい。
どうしたら美味しそうに見えるか
「わっ！」となるかな。

スタミナがつくように
豚肉味噌炒め弁当！名付けて
高校球児弁当！

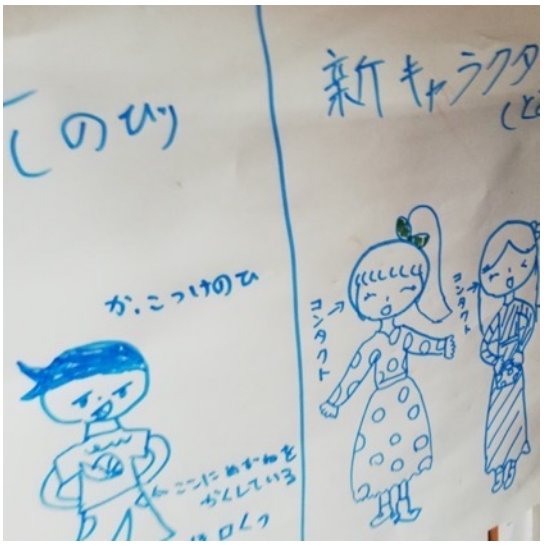
わっかの近くに住んでいる、ひとり
ぐらしのおばあちゃんにも届けるの
で、年齢を意識して作りました。

若者が、「鶏の皮を毎回抜いてくれ
ているよね。面倒なのにありがと
う。愛を感じる」と言ってくれた。

お弁当はお肉が入れやすいけど
バランス考えるとたまには魚も。
卵焼きにネギ、気づいてくれたかな

日々のあすかさんのつぶやきは　Twitter @aoas_wacca

子どもたちが、わっかにのこしたもの



若者に希望を抱くことのできる「明日」を届けたい

７月 31 日まで、クラウドファンディングを行っています。

https://www.congrant.com/project/wacca/1599

困窮の子や若者支援を

NPO法人「わっか」ネットで寄付募る

米原

新型コロナウイルス感染症の影響で困っている子どもや若者を支援しようと、米原市米原のNPO法人「わっか」がインターネットを使ったクラウドファンディングで百六十万円を目標に寄付を募っている。QRコード。七月三十一日まで。寄付は若者らへの食費や生活費の支援に使われる予定だ。

わっかは二〇一四年に活動を開始し、金物店を借りて子どもの居場所作りを行ったり、子ども食堂を開いたりしている。また、昨年度からは家庭環境などで生きづらさを抱える若者を、生活費や食費の面で支援するためのクラウドファンディングなども行っている。

米原市米原のNPO法人「わっか」がインターネットを使ったクラウドファンディングで百六十万円を目標に寄付を募っている。QRコード。七月三十一日まで。寄付は若者らへの食費や生活費の支援に使われる予定だ。

わっかは二〇一四年に活動を開始し、金物店を借りて子どもの居場所作りを行ったり、子ども食堂を開いたりしている。また、昨年度からは家庭環境などで生きづらさを抱える若者を、

寄付をする

50,000円　6人

目標金額1,600,000円

若者支援への寄付を募るクラウドファンディングのサイト

滋賀夕刊　2020年(令和2年) 6月19日(金曜日)

滋賀夕刊　米原版　第2159号

発行所　滋賀夕刊新聞社

給付金を困っている子に

NPOわっか「若者シェルター」に支援を

コロナに負けへん！

家庭環境に恵まれない子たちの居場所づくりとして米原市米原のNPO法人わっかは、命を絶ちDV（家庭内暴力）で家出を余儀なくされている子、親の暮らしを支えている子、何もし、住む家がない子、母親に虐待されたり、家族が自殺してしまったり、学校に通うことも出来ず、生活を維持するためアルバイトに励む子もいる。新型コロナは、厳しい状況を追い打ちをかけている。

このような状況の中には10万円の給付金が自分のところへ届かない若者もいる。また、学校に通うことも出来ず、生活を維持するためアルバイトに励む子もいる。新型コロナは、厳しい状況を追い打ちをかけている。

天涯孤独の身になった子、精神疾患を患う者、しんどい子たちがいる。

子どもたちに古民家を開放している「わっか」

親戚がなく、生活保護世帯、家庭内暴力、職場、特技などを

相続による土地家屋の名義変更はできていますか？

嶋司法書士事務所　0749-68-2771

しが彦根新聞

TEL(0749)65-0606　FAX(0749)62-4483

コロナ禍明

吉岡夫妻のクラ

長浜文芸館は21日午後2時から、スペシャルチャリティクラシックライブを開く。コロナ禍明けの初イベント。

これまでは密閉空間で気軽に楽しめるスタイルだったが、新型コロナウイルスの感染につながる3密を避けるため、大ホールの収容客席を半減の200席で予約制で開催する。入場無料だが、ホールに生活にゆとりのある人など、一部を困っている子たちのために役立てほしい。支援を通じて、子どもたちには人の優しさ、温かさを伝えたい、と話している。

今回のクラシックは寄付品など無しが、礼状や事業内容の報告書が届けられる。詳細は募集サイトコングラッド、募集期間は7月31日まで。

中止を発表

米原曳山まつり

解井地蔵まつり

新型コロナウイルスの影

寄付とご一緒に温かい言葉をいただいています。いただいた思いを若者たちに彼らが嫌がらないように伝えたいと思っています。1 人じゃない、身近にサポートしたいと思う大人がいること、それはもしかしたら重い言葉になるかもしれない。でも、心から彼らを思い寄付をしてくれた人がいること、そのことは大事なことだと心から思います。　（ふりかど）

放課後児童クラブ
さかっこクラブ

子どもと大人の関係について書き続けているが、その対比をするとき、必ずと言ってもいいほど出てくる話題がある。それが「指導する」「教える」といった、いわゆる教育的観点についてだ。子ども達は、確かに大人よりもできることも少なく、生きていた時間も短い、この世界での経験値が圧倒的に少ない。だから、この社会で生きていく方法について教えてあげないと困るだろうし、文化的な生活を営む上での、一定のルールや方法について学ぶことは必要だろう。

しかしながら、人間とは愚かなもので、教える側になる大人は教えることに優越感を感じ、そこで自分の承認欲求を満たしながら、上下関係における子どもとの関係に落ち着いてしまうことが往々にしてある。しかも、その状況に気づいていない人も多いように感じる。個人的な感想にはなるが、教えることに必要以上の充実感と満足感を持っている人の話を聞くのは本当に辛い。そのスキルのできる・できないに人との圧倒的な差を感じているのが、ひしひしと伝わってきて、見ているだけでこちらが疲れてくる。

だから、ボクは「教える」よりも「伝える」と言う方が好きだ。そう文化とは、脈々と受け継がれるものであって、押し付けられるものではない。伝承していき、それが、個々人の生き方に染み渡っていくのである。しかし、それも必ずしもそうなるわけではない。それが、彼ら子ども達の人生の選択になるのかは分からないし、定められるものではない。親や周りの大人達の選択と生き方に特に疑問を持たずに、それを継承することもあるだろうし、そのものに疑問を感じ、全く違う生き方をする場合もあるだろう。もちろん、そうやって二分できるものでもなく、結果的に、その人の生き方として確立されていく。同じようで違ってくるのだろう。

そうやって言っていても、いやいや、それでも善悪の区別は万国共通だろうと、それは教えないとダメだとお叱りを受けそうだが、それもまた、確かなものではない。全てが違うわけではないが、善悪の区別ですら、国によって違う部分があるのだ。そう、私達の目の前にある良いも悪いも、ルールも常識ですら、世界でみたときには不確かなものでしかないのだ。そんなものを、自信を持って、子どもに教えることができるだろうか。否、教えていいものなのか。少なくとも、ボクはそんなことはできない。それに、子ども達は生き方の可能性を狭められ、生きづらくなることがわかるからだ。

この世界には、本当に色んな生き方をしている大人達がいる。それこそ、ボクなんかじゃ想像もできないくらいの色んな生き方があって、それがこの人間社会を形づくっている。ボクは、子ども達にそのことだけは伝えたいと思っている。そして、示せる限りの人生の有り様を子ども達に見せておきたいと思っている。

だから、クラブには沢山の大人の人に関わってもらっている。今は、スタッフの充実に力を入れている。色んな大人がいて、色んな生き方がある。それが、その子達の、その後に人生にどう影響するかは分からないが、そうすることが、子ども達にとって、楽しみであり、希望であり、救いであると信じて。日々、子ども達と向き合っている。

さかっこクラブ主任（わっか共同代表）　柳生のび

フリーのソーシャルワーカーとして、いろいろな場所で若者支援に関わらせてもらっていると、いろいろな若者に出会う。それこそ、リアル天気の子を地でいく若者であったり、児童養護施設出身の若者であったり、児童養護の制度には引っかからないものの、今までよく生きていてくれたと思う若者。

児童福祉関係でみると、1997年に自立援助ホームの制度化、2004年には社会的養護施設における退所児童への支援が明文化され、いわゆるアフターケアが義務化されました。もちろん、それ以前でも社会的擁護の各施設では退所後の相談援助が展開されていました。

そして、児童虐待・DV対策等総合支援事業として国庫1/2、自治体1/2で「退所児童等アフターケア事業」もスタートしています。ゆずりはさんや、あすなろサポートステーション、Lalaの家などがこれにあたります。このアフターケア事業は、児童福祉や就業支援に精通したスタッフを配置し、SST、相談支援、生活支援、就業支援等を行うことにより、地域生活及び自立を支援するとともに、退所した者同士が集まる場作りをしています。2014年の厚労省家庭福祉課の資料では、全国に20ヶ所あるようですが、私の仲間からの話によると、現在は倍以上に増えているそうです。それでも、事業規模感がバラバラであったり、内容の標準化はされていないそうです。

そして、社会的擁護の退所児童に対してはインケアといって、入所時から退所後を見越した支援がおこなれ、それは「いつまでも」続く支援であるとも言われています。子どもにとっては、退所後も入所していた施設とはそうしたことで関わりがあるかもしれません。ただ、児童相談所は現実的に18歳を超えた時点で関わりが薄るなる傾向がありますし、私たちが出会う若者は必ずしも入所していた児童養護施設や自立援助ホームとの関係性がよくなく「2度と関わりたくない」と話す若者も少なからずいます。

では、そうした社会的擁護の枠組みに入っていない若者はどうなるのでしょうか。たとえば、18歳を超えてから家族を全てなくした。たとえば、親族はいるものの関係性が悪く独居している。たとえば、社会的擁護にケアされず生きてきたけれど、現にいま苦しい若者などは、現行の制度下では、そうした公的・準公的福祉サービスを受けるに至りません。

Maki Channel　第4回

佐藤真紀

公的な福祉サービスではなく、民間団体に目を移した時はどうでしょうか。たとえば、東京都では都からの委託で10代の女子限定のラッピングバスがあったり、全国各地ではシェアハウスという形で各団体が実践をおこなっていたりします。そして、後者は私が関わるNPO法人わっかをはじめ、公的支援がないことも多くあります。

こうして、制度から抜け落ちる若者たちへの支援は、民間団体の支援に委ねられています。団体によっては市民協働の採択事業として行なっている例にも出くわしますが、その多くは手弁当です。まさに私が理事として関わる法人ですが、クラファンでまかなっているという団体もあります。

こうした民間団体の支援も全国津々浦々にあるわけではありません。つまり、その団体と関係性が悪くなったら、後はないという若者にとっても苦しい状況です。社会的養護にかかっていなかった若者へのサポートや、アフターケア事業は充実させることが国としての責任のひとつでしょう。そして、相談するハードル、つまり障壁にも目を向けなくてはなりません。相談には「そこに行かなければならない」というお金や時間の切出し、租税公課や年金の手続きなどで困っていても、そもそもどんな場所で、どんな相談ができるのか知らないという認知や知識の障壁。そして、誰しもがある自分の苦しさを他者に開示しなければならないという心理的障壁。

相談へと辿り着いたとしても、そこには言語化という課題がつきまといます。自分のことを「相談員が理解できるように」話すスキルや、どんな対応を求めているのか伝えるスキルなど。そうした言葉にできないことを引き出したり、汲み取ったり、アセスメントするのが相談員のひとつのスキルですが、残念ながら必ずしもそうした相談員ばかりではありません。

相談へとつながる回路を充実させることと同時に、相談へとつながった際には、相談に来た若者のこと全てを受け止める支援者の養成も求めていきたい部分です。そして、時には相談から入らない相談も必要かもしれませんね。

もやもやと書き連ねましたが、この2点は行政へと求めていきたいことです。もちろん、目の前の若者とは違いますが、今は社会福祉士だ、精神保健福祉士だと生活をしていますが、こうした社会的養護に引っかからない苦境に立たされた若者は、私の過去でもあります。

私の知識不足や至らない点も多いと思いますので、こうした支援が公的にあるなどの情報があればください。活かしたいです。

佐藤真紀さんのプロフィール　@19hz（Twitter）

現場から現代社会を思考する/大学院生/非営利法人の理事/地域:東京,岐阜,滋賀/領域:地方自治,若者,子ども,虐待,ひきこもり,生活困窮,学校,女性,LGBTQ/元学校の中の人/

居場所づくり事業

毎週月よう日の放課後に必ずひらかれる場です。参加費無料・申込不要。カリキュラムやプログラムは一切なしで「ルールがない」がルールです。子どものみちくさできる場所、子どものたまり場として場をひらいています。

月ようわっか　毎週月よう日 15:30 ～ 20:00

子ども 36 名（26 名）おとな 9 名（0 名）

（）内の人数がご飯を食べた方持ち帰りも含む

1 日　子ども 16 名（10 名）　大人 4 名（0 名）

メニュー：　ごはん、そうめん、ポテトサラダ、麻婆厚揚げ

8 日　子ども 11 名（8 名）　大人 2 名（0 名）

メニュー：　そぼろ丼

15 日　子ども 8 名（6 名）　大人 7 名（0 名）

誕生日リクエストメニュー：　ごはん、コーンコロッケ、ピーマンのツナ炒め、もやしのナムル、プリン

22 日　子ども 14 名（10 名）　大人 2 名（0 名）

メニュー：　ごはん、ペンネミートソース、鶏ハム、ピーマンのツナ和え

29 日　子ども 18 名（12 名）　大人 4 名（0 名）

メニュー：　ぶっかけうどん

居場所づくり事業

平日わっか　毎週火～金曜日 13:00 ～ 17:00

子ども 35 名　おとな 3 名

いつもは常連の少年たちと一緒に過ごしています。ゴロゴロしたり、ときどき話をしたり、少年は散歩にでかけたり勉強をするときもあります。まあ、したいように過ごしています。

ときどき、近所の人がふらっと寄ってくれます。この日、寄ってくれた方は、わっかにあるギターを取り出してチューニングをし、弾き始めました。ギターを弾きたいと触ることもあった少年がおじいさんの横でチューニングする様子を見ています。

ときどき、こうやって人の出入りがあるのもいいなって思います。その子の違った様子が見られるのは面白いです。

居場所づくり事業

かめラボ　金曜日 17:30 ～ 19:30

武将の好きな少年たち。

ぼくに彼らが知っている武将のことを話してくれます。ただ、ぼくが学校で学んだことを辛うじて覚えているくらいなので、子どもたちのほうが「もーう、桶狭間は地名だよ」「安土城は織田信長が丹波長秀に作らせたんだよ」と、教えてくれています。きっと、歴史に詳しい人がいたら、この子たちの興味をもっと伸ばせるんだろうなと思うので、もしこれを読んでくださった方で、歴史にとっても詳しい方がいましたら、金曜日の夜にこの子たちと過ごしにきてほしいです。

こんなふうに、安心できる環境をぼくらが作り、そこに専門の方などが来てくださり子どもの興味をひっぱっていく、そんなことをかめラボではしていきたいです。

居場所づくり事業

日ようわっか　日曜日 10:00 ～ 15:30　子ども 14 名　おとな 7 名

6 月 21 日に 2 ヶ月ぶりに日ようわっかをしました。

久しぶりに会ったけど、常連さんばかりなので、まーったくいつもと変わらない雰囲気でした。

月に 1 回じゃあ、少ないのかなと思うこともあります。もっと開けないと意味がないのかなとも思うこともありますが、そんなことない少なくても続けていくことが大事だと改めて思えました。

6 月に頂いたご寄付

物品でのご寄付　6 名

蚊取り線香、ムヒ 、蚊除けスプレー（4 名）
もち、お米（1 名）
お米、たまねぎ（1 名）

マンスリーサポーター　16 名

大渓麻紀子、福地真路、後藤基志、マコトヤ、佐藤真紀
佐藤桃子、廣部奈緒美、前田諭、藤澤彰祐、石田智子、佐藤笑代
三輪恵美、南出吉祥（敬称略）

都度ご寄付　3 名

毎週金曜日にお弁当を届けている方
わっかに来てくれた方
青岸寺
（敬称略）

助成・補助団体　10 団体

米原市、独立行政法人 福祉医療機構、リタワークス株式会社
真如苑、社会福祉法人　米原市社会福祉協議会、
公益財団法人 信頼資本財団、一般社団法人 全国食支援活動協力会
公益財団法人 さわやか福祉財団、社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会
NPO 法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ
（敬称略　2020.7.25 現在）

編集後記

レイアウトを変更して2回目の
月次報告書をお届けしました。

前回お送りしたとき、ドキドキしていました。
ちょっと思いが強すぎないか、と。
ぼくらは、これまでただ開けることで
なんでもない時間をすごすことを
大事にしてきました。

そんなわっかをいいなって思ってくださっていた
みなさんに、いままでのほうがいい、と
言われやしないかと。あまり思いを前面に
出さないほうがいいのにと思われないか、と。

好意的な返事をいただくこともありました。
それに嬉しくなっていて想像しました。
そうじゃない意見は、わざわざ
送ってこないよな、と。

それでも、いいかなと思います。
こうやって悩みながら、試行錯誤しながら
古民家開放と同じスタンスで
月次報告書も作っていきます。

（だいのすけ）

団体名	NPO 法人 わっか
住所	〒521−0012 滋賀県米原市米原 178-5
電話	070-1803-1059（代表）
メール	wacca235@gmail.com
ホームページ	https://npo-wacca.org
Facebook ページ	こどもと大人の居場所 わっか
Twitter	アカウント名 @NpoWacca